

ニュースレター

2001年11月30日発行
 関東学院大学 キリスト教と文化研究所
 〒236-8501
 神奈川県横浜市金沢区六浦東一丁目50番1号
 TEL: 045-786-7873(研究所直通)
 発行者: 森島牧人
 (Director: Makito Morishima)

INSTITUTE FOR THE STUDY OF CHRISTIANITY AND CULTURE KANTO GAKUIN UNIVERSITY



キリスト教と文化研究所
 所長

森島 牧人

主の御名を心より賛美申し上げます。クリスマスが近いすてきな季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、ご報告が遅れましたが、2001年10月13日は関東学院においても私達にとっても将来大きな飛躍となるであろう「キリスト教と文化研究所」の開所記念式典が催されました。

当日は清々しい晴天に恵まれ、各学校、各教会から沢山の方々がお祝いに駆けつけて下さり、所員を含め83名の方が出席して下さいました。

最初に記念開所式典が関東学院大学礼拝堂において厳かに行われました。関東学院大学大野功一学長が式辞、その後、内藤幸穂理事長、小川圭治学院長、そして日本バプテスト同盟の天野邦彦理事長よりご祝辞を賜り、開所を感謝する祈りが捧げられました。式辞・祝辞は次ページに掲載させて頂きました。どうぞご覧下さい。

式典後、『フォーサイト21』の10階、中会議室に場所を移し、東京大学名誉教授、隅谷三喜男先生をお迎えし、「日本社会とキリスト教」と題して、日本においてキリスト教がどのように伝播され、どのような特徴を持っていたのか、またその問題点はなんであったかを明確に講演して頂きました。参加された方々は非常に興味深く聞いておられたようで、大変好評でした。私自身も課題を与えられ心を新たにさせられる思いでした。

そして祝賀会では、名古屋学院宗教部長の楠本茂貴先生よりご祝辞を頂き、『フォーサイト21』最上階の絶景を味わいながら乾杯、しばし歓談の時を楽しみました。その際に所長としてキリスト教と文化研究所が設立するまでの経緯、命名のこだわり(「キリスト教文化研究所」ではなく「キリスト教と文化研究所」)等の説明を致しました。

このように皆様のお祈りに支えられ、素晴らしい開所式典が出来ましたことを心から感謝し、ここにご報告申し上げます。

加えて、今現在の研究所の状況を申し上げますと、先日第1回の所員研究会議が催され、研究テーマも4つほど挙げられ、研究プロジェクトは始動致しました。

今期の研究テーマとは、「奉仕教育における課題と実践」「いのちを考える」「バプテスト研究 横浜・関東学院」「日本の精神風土とキリスト教」です。どのテーマも大変重要であると判断し、研究委員会で決定されました。研究テーマに関するご意見がありましたら、ぜひ研究所にお寄せ下さい。

さて、キリスト教と文化研究所では一つのテーマを共同研究する「客員研究員」を随時募集しております。興味をお持ちの方は所長、または各所員までお申し出下さい。

尚、キリスト教に関する歴史的文献・資料を整理する資料委員会はこれからじっくり方針を検討し、資料をまとめていく予定です。その際にはぜひご協力をお願い致します。

今後ともキリスト教と文化研究所の活動に目を留め、お祈りの内に覚えて下さいますようお願い致します。

キリスト教と文化研究所 開所式式辞

関東学院大学 学長

大野 功一

関東学院大学はその源流を横浜バプテスト神学校に有し、また学園紛争の中で神学部を廃止した歴史を背負いながら、今日、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨として教育と研究に取り組んでおります。したがって、教学上の責任者の立場に立つ学長は、キリスト教徒でない私のような者であっても、キリスト教と教育課程、そしてキリスト教に係わる研究活動について熟考しなければならないと考えております。

キリスト教に係わるこれらの課題について、一つ一つ答えを見出していかなければならないのですが、キリスト教と教育課程については、率直に申し上げて現時点ではその答えをいまだ見出しておりません。

キリスト教に係わる研究活動については、かねてより大学として、キリスト教に係わる研究所を機能させる必要があるのではないかと考えておりました。

過日、学院史に目を通して、関東学院大学50余年の歴史の中に、キリスト教にかかわる研究所が2つ存在していたことを知りました。

そのひとつは、1949年（昭和24年）に設置された「キリスト教研究所」です。これは研究所と称されていましたが、バプテスト同盟の牧師養成機関として設けられたものです。1973年、神学部の廃止とともに消滅したと記されておりました。

もうひとつは「日本プロテスタント史研究所」です。これは1957年（昭和32年）に創設されています。日本プロテスタント史を研究することが関東学院大学の使命のひとつであるという理念のもとに開設された、本来の意味での研究所でした。当時の白山源三郎学長を所長とし、2名の所員をもってスタートしました。しかしながら、学園紛争が激化し、1973年に神学部が廃止されるとともにその活動を停止したままの状態でした。その日本プロテスタント史研究所が、このたび「キリスト教と文化研究所」が創設されるにともなって廃止されることになりました。

このように「キリスト教と文化研究所」を設置して、「日本プロテスタント史研究所」を廃止した、その意図を、かいつまんでお話をさせていただきます。

キリスト教文化圏において近代科学が生まれ、近代科学の発展のうえに現代社会が確立されています。日本はその西洋で生まれた近代科学を移入しつつ今日の繁栄を築いています。したがって、西洋の歴史研究はもちろんのこと、日本の歴史研究においても、近代科学を生んだキリスト教文化圏を考察するとともに、キリスト教を理解することが不可欠であると考えられます。さらに、今日の社会を深く理解し、そして、よりよい社会を創造していくためにも、キリスト教にかかわる研究を必要とする領域が広がっております。

今日、西洋の先進諸国が中心になって、近代科学を縦横に駆使して世界をリードし、厳しい競争原理が支配する地球的規模の経済社会・政治社会を作りだしました。この現代社会は、宗教とは無縁の厳しい競争原理を軸として動いていながらも、ますます宗教の持つ意味を大きくしつつあるように思われます。人間や生命の尊厳の否定、倫理観の低下、人間関係の希薄化を幾度も確認させられるような事件、人間性のありようを根底から問い直さなければならぬような忌まわしい事件が頻繁に生じております。こうした現代社会を解明し、よりよい社会を形成して行くためには、宗教の持つ意味を真摯に考究することが不可欠です。キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、「人になれ、奉仕せよ」を校訓とする本学としては、キリスト教にかかわる基礎的研究とともに、現代を形成している経済、社会、文化、科学技術、あるいは人文科学、社会科学、自然科学の学問領域をキリスト教との関わりにおいて研究する責任を引き受けるべきであろうと思います。

このように考えますと、休眠状態にあった「日本プロテスタント史研究所」は、キリスト教とのかかわりをもって社会制度や科学技術や芸術などを研究する者にとっては、研究領域においても、方法論においても、参加しづらい機関でありました。そこで、キリスト教との関連において、広く人文科学、社会科学および自然科学にわたって、総合的研究を行い、文化の創造と発展に寄与することを目的とする研究所を設置することになりました。そして、その研究

内容にふさわしい名称として「キリスト教と文化研究所」を採用することとなりました。

この「キリスト教と文化研究所」が、活発に研究活動を展開し、キリスト教にかかわる特色ある高度な研究成果を世に問い続け、関東学院大学の存在意義を世にむけて主張しうる機関となることを期待し、また学内外の多くの方々にご支援をお願い申し上げます、式辞とさせていただきます。

開所式 祝辞

学校法人 関東学院 理事長
内藤 幸穂

私は今日、このキリスト教と文化研究所の今後研究すべきテーマ等について細かく申し上げる気持ちは全くございません。ただ私自身がキリストとの繋がりに関して、本当に細い糸で結ばれつつある私がいかなる意味でキリストという言葉そのものに興味を持ちながら、ある意味ではおかしなアプローチをしているかもしれませんが、そういうことについてお話をし祝辞に代えさせていただきたいと存じます。

ご承知のように、英国ハンプシャー州の南西にChrist Churchという町が昔ありました。今ではニューポート市に包含されておりますが、言語的に見ましても、地理学的に見ましてもChrist Churchは「いくつかの川の間に挟まれた所」という意味であり、そういう名がついたものであります。

一方、南半球にあるニュージーランドの南の島には、人口15万人余りの観光地兼商業都市としてのChrist Churchがあります。本学のラグビー部が毎年キャンプをはるスポーツの中心地であることはご承知のところであり、また、先般教育研究協定を結びましたOxford大学にはChrist ChurchというCollegeが実在致します。「不思議な国のアリス」を書いたルイス・キャロルが数学を教えていたという変わった大学であります。名は体を表すともいえるのでしょうか、不思議なことにこれらの間にはChrisを挟んで僅かながらの繋がりを発見することが出来ます。

まず、ニュージーランドのChrist Churchは、英

国カンタベリー教会の入植に始まり、伝道者ゴッドリィが学んだOxford大学のChrist Collegeに由来して命名されたわけであり、WolseyのCardinal Collegeとして1525年に作られましたオックスフォード大学のクライストチャーチは、1546年、あの有名なヘンリー8世によって再構築されて以来、14名の英国総理大臣を輩出したという名門であります。ニューポート市がいくつかの川の間に形成された町であると同時に、ニュージーランドのChrist ChurchはAvon川とStou川との間に位置しております。

翻って、Oxford大学のカリキュラムを拝見致しますと、Oxfordで学ぶ神学(Theology)とは、現在では神学の講義は聖書からキリスト教の伝統をまず学び、学生は哲学的教義と歴史学的教義を自由に選択することが許されております。選択科目には宗教哲学とか宗教心理学もあります。仏教とかイスラム教の講義もあります。また哲学、心理学、社会学的視野で宗教学を学ぶことも出来ます。

私がここで宗教学という言葉を使ったことにご注目いただきたいと思っております。宗教学は神学や宗学から区別されているのが日本の学会の常識と私は伺っております。私は専門家ではありませんのでそれが正しいかどうかは存じませんがそういうことを耳に致します。この意味での宗教学は神学や宗学のような特定の信仰を前提とした護教的な、伝統的な立場の学問ではありません。宗教学は信仰の是非を論ずることなく、伝道とは無縁な立場から出きるだけ主観的な価値判断を交えないで、専ら客観的に宗教の諸事実を観察、研究をしようと努力する学問であると思っております。

今回、大野学長のご努力によりまして、キリスト教と文化研究所が設立されました。これがキリスト教と文化の研究所なのか、キリスト教と文化研究所なのか、このへんを私は自分自身の心の中でクリアにして参りたいと思っております。

日本プロテスタント史研究所は、廃止されましたが、キリスト教を信じる方もそうでない方も、えこひいきなしにありのままの事実を分析してみる、それが宗教学の立場であり、同時に新しく生まれた研究所設立の意義であろうと私は理解致します。

以上をもって祝辞と致します。

祝 辞

学校法人 関東学院 学院長

小川 圭治

私どもが熱い祈りを持って準備を進めて参りました「関東学院大学キリスト教と文化研究所」が設立され、本日、ここにかくも盛大に開所記念式を迎えることが出来たことを関東学院全体の各学校に所属しております学生、生徒、園児、ならびに全教職員と共に心からお祝いしたいと存じます。

関東学院の伝統と建学の精神の基礎であるキリスト教は、今も大野学長からお話ございましたように、まずは実践的なものであったと私は理解しております。

そのことはキリスト教の伝統を示す、初代学院長坂田祐が定めました校訓「人になれ 奉仕せよ」あるいは、A A ベンネット宣教師の「He lived to serve」が、はっきりと示しています。奉仕という言葉がこんなに明瞭に組み込まれている建学の精神も珍しいと言うべきでございましょう。しかし、それと並んで関東学院の伝統的精神であるキリスト教にはもっとリベラルな雰囲気包まれたアカデミックな伝統が生きています。

そのことは、まだ神学部が存在して日本のキリスト教研究を代表するような専任教員がおられました時代にも、学部付属の研究所として「キリスト教研究所」と「日本プロテスタント史研究所」が設置されており、立派な学問的成果を次々に公表して来られました。しかし、キリスト教研究所は神学部廃止と共に閉鎖され、日本プロテスタント史研究所は、名前だけの存在という事で残っていましたが、自主的な活動はしていませんでした。

この度、キリスト教研究所の流れを受けまして、「キリスト教と文化研究所」という新しい装いで大学付属の形で設立されましたことは関東学院の歴史の中でも実に画期的な出来事だといえると思います。

今日、関東学院がこのような古い伝統をしっかりと受け継ぎ、その歴史の土台の上に新しい歩みを踏み出そうとしております時に、キリスト教と文化研究所の開所式をこのように迎えることが出来たことは私どもにとって何よりも大きな喜びであると存じます。

学院内外の皆様方のご援助、ご鞭撻を賜りまして、この研究所が立派に発展を遂げますように主イエス・キリストの導きをから心から祈るものでございます。多くの方々のご出席を心から感謝して祝辞と致します。

祝 辞

日本バプテスト同盟 理事長

天野 邦彦

キリスト教と文化研究所設立、開所おめでとうございます。

私が在米中、本学の学生さん達が森島先生や、他の先生方に連れられてアメリカによく研究に来られました。ある年には米国のキリスト教と少数民族問題の取り組みをしていかれました。そのような研究の積み重ねが今日の日を迎えていると思います。

私は日本に戻り、横浜に10年程居りますけれども、ただ今、海外伝道協会のお手伝いをするようになり、タイのチェンマイを訪ねますと、ここにも関東学院の学生さん達が行っておられまして、やはりキリスト教と文化に関わるような研究や、実践活動をしておられるのを見ることが出来ました。そうした努力が今後も重ねられるということだと思います。

私は、1961年に関東学院の戦後復活した神学部の第1回卒業生として卒業致しました。その後、いろんな事情があって神学部が閉鎖されましたけれども、その神学部を卒業して伝道牧会の現場に遣わされて参りまして、様々な形でキリスト教の信仰と文化の問題と突き当たることになりました。キリスト教の信仰、福音の教えがどのようにして人々に伝えられて行くのか、丁度コンピューターにおけるハードとソフトの関係のようでありまして、福音が人々に届いていくために様々な工夫、努力がなされて来ました。

私は日本バプテスト横浜教会の牧師をしております。横浜教会は今年128年目を迎えております。128年の歴史のうち、初めの50年は山手、元町の地域にあり、神学校や、関東学院の前進であります。そして、その後下町の移転を決意し寿町に参りました。大正12年、新会堂が建て終わりますと、あの大正大震災が起こったのであります。前後して数度の火災、大

震災、戦災がありました。ですから、横浜教会は何度か会堂を失うという経験を持っておりますけれどもその度に会堂を建て直して参りました。なぜ会堂が建て直されてきたのか。それは福音が宣教されるためであり、いわば戦いの場所として信者達は会堂の建設を続けてきたのです。またその為に米国のミッションボード、宣教師、全国の教会の仲間達が助けられました。このようにして福音がそこで述べ伝えられるための様々な工夫がなされました。文化的な営みであります。

このことに触れて宗教と文化の関係についてティリッヒの言葉を思い出すのでありますが「宗教は文化の実体、内容である。文化は宗教の形態である。」そしてこのことについて、関東学院の先生方が1971年に出版されました「現代人と宗教」という書物の中で当時この執筆を担当された細川、松本、宍戸の三人の先生方がこんな風に言い換えております。「一つ、もし宗教が現実の生活に意味を持つとするなら文化形態の中に受肉しなければならない。」「二つ、まだもし文化が人間存在にとって意味を持つとするなら文化は何らかの程度において宗教的な内容を持たなければならない。」「世俗の世界を区別し分離するという宗教と文化の二元論的な考え方が止場されており、それから宗教と文化を同一化するような誤りも克服されると述べ、文化に対して様々な外圧や規則を加えるのではなく、宗教がエネルギーを供給していく、文化活動に対して意味と方向性を与えることを期待する。とそのように書いているのであります。最後にこのようにまとめております。「宗

教は文化活動の主体である人間に対して理性の陥りやすい誤謬を防ぎ、物の見方や考え方を深める活力となるように」と。

このようにキリスト教と文化の関連、接点について述べられたのであります。

私も特に横浜教会の歴史を振り返って、宣教師の働きを見た時、信仰に立って活かされ、用いられている、営みを見るのであります。何よりも第一に聖書の翻訳をなさいました。本学の創立者として知られるA A ベンネット博士も深く関わったのです。

このようにして日本でキリスト教が果たした最大の働き、最初の出発が聖書の翻訳であったことを私は心から感謝しています。宣教師達は賛美歌の普及にも関心を持ち、賛美歌の翻訳もして下さいました。更に教会の働きが進められていく中で青少年への教育のために本学の前身となります神学校、関東学院および捜真学院、その他の学校が形成されて参りました。またパプテスト派は一般民衆に福音を届けるということで熱意を持って働いたのでありますが、ネーザン・ブラウン宣教師はじめゴープル、あるいはベンネット、女子宣教師達も非常に良き働きをされました。彼らの伝道は多方面に及び人力車夫、今日でいうタクシーの運転手への伝道があったり、様々な人々に福音を届けるための努力がされました。

このキリスト教と文化研究所の今後ここでなされる学び、研究が私ども教会の現場へ届けられ、それを私どもも一緒に調べ、用いさせて頂きたいと心から期待しております。

今後のご活躍を心から祈っております。



行事予定

研究プロジェクト開催のお知らせ

テーマ：「奉仕教育における課題と実践」(第2回目)
 日時：2002年1月31日(木) 16:00~17:00
 会場：キリスト教と文化研究所(六浦校地 フォーサイト21 7階)

テーマ：「いのちを考える」(第1回目)
 日時：2002年1月30日(水) 14:00~16:00
 会場：キリスト教と文化研究所

どちらの研究プロジェクトも陪席自由と致します。興味をお持ちの方、是非いらして下さい。

所員紹介

文学部 森島 牧人(共通科目) 所長 藤原 怜子(共通科目) 西原 克政(英米文学科)	工学部 松田 和憲(教養科目) リサゲイルポンド(教養科目) 精木 紀男(建築学科)
経済学部 高野 進(共通科目)	スタッフ 田川 由利野(研究所事務担当)
法学部 影山 礼子(共通科目) 村椿 真理(共通科目)	2001年11月現在

客員研究員募集のお知らせ

私どもの研究所では共同研究テーマに取り組む客員研究員を随時募集しています。是非、私ども関東学院大学「キリスト教と文化研究所」にご一報下さいませ。共に祈りと熱意を持って研究に取り組みましょう！
 ご連絡お待ちしております。

お問い合わせ先：045-786-7873(研究所スタッフ 田川まで)